

①ディレクトフォース

今回のディレクトフォースでは、とても貴重な経験をさせて頂くことができました。わたしたちの班は、三菱商事様へ訪問しました。

初めに、「商社」とはどのような仕事をしている会社なのか教えて頂きました。商社とは、貿易を助ける会社で、幅広い事業を展開しており、「ラーメンから航空機まで」という例え方で説明されました。わたしは、本当にたくさんの場所で活躍している会社なのだな、と改めて感じました。続いて、現役で働いている社員の方々から、話を聞かせて頂きました。サーモンに携わっている方、アルミニウムに携わっている方、東北復興支援に携わっている方が話してくださいました。どの話もとても興味深いものでしたが、その中でもわたしが一番おもしろいと思った話が、アルミニウムに携わっている方の話でした。

その方は、モザンビークにアルミ工場を作る、というモザンビークの大規模国家プロジェクトに携わっています。アルミ工場は、三菱、オーストラリア、南アフリカ、モザンビーク政府の共同出資によって作られました。そして、三菱はそのアルミ工場周辺の地域へ貢献活動を行っているそうです。その貢献活動の話が興味深かったです。それは、小学校づくりです。わたしは、小学校をつくったことが興味深かったのではなく、小学校をつくったことで、現地の人々の識字率が上がり、そしてその人たちがアルミ工場で働く。三菱も、モザンビークの人々に働いてもらうことで利益を得る。そしてまた別な貢献活動を三菱が行う。この、地域に貢献したことが、自分たちにとってもいいことにつながる、というサイクルがとても素晴らしいと思いました。現地の人々と一緒に取り組むやり方がいいな、と感じました。三菱は、世界中とつながって、たくさんの地域でたくさんのプロジェクトに関わっているのだと知ることができました。

その後、班ごとに、社員の方や、ディレクトフォースの方とディスカッションを行いました。一つ目のディスカッション、「日本の常識、世界のジョーシキ」では、ディレクトフォースの方から日本の文化の特徴を教えてくださいました。その方は、日本文化は、「特別な文化」だと意識している、とおっしゃっていました。それはなぜかという、『あかせきれい』がきちんとできているから、だそうです。わたしは、『あかせきれい』って一体何のことだろう、と思いました。『あかせきれい』とは、あんぜん(安全)、かくじつ(確実)、せいけつ(清潔)、きりつ(規律)、れいせつ(礼節)の頭文字をとったものです。日本には、毎年多くの外国人観光客が訪れています。なぜ観光客が多いのかというと、日本は、この『あかせきれい』が他の国よりもできているからだそうです。「日本みたいに財布を落とした時に届けてくれる国は他にないよ」とその方はおっしゃっていました。わたしは、それを聞いて、日本のことがこの話を聞く前よりも好きになりました。日本人だということに誇りを持つように、そして、外国の人たちにとって、日本がずっとすてきな場所でいられるように、わたしももっと普段のふるまい方などを気をつけていこうと思いました。「グローバルな世の中でスケールの大きいことを考えるにはどうすればいいのか」もその方から教えてくださいました。どうすればいいのかというと、まず、自分の中で、しっかりと日本の文化や日本語を理解することです。しっかりと日本のいいところ、悪いところ理解したうえで、外国のいいところ、悪いところを見つめることが大切なことだそうです。自分の国のことを理解しないと、何もわからないそうです。「日本」のことをしっかりと学ぶことは本当に大切なことなのだ、と知ることができました。その方が最後に質問の時間をとってくださいました。わたしは、「三菱で仕事をしてきた中で、学んだことの中で一番大切だと思ったことは何ですか。」と質問しました。その方は、どんな世界でも、人を裏切ることには絶対にしてはいけない、誠実であることと人から信頼される人間であることが一番大切なことだと教えてくださいました。わたしは、どんな時でもこのことを心に留めてこれからの生活を過ごしていこうと思いました。

二つ目のディスカッション「高校時代に培うチカラ」では、先程モザンビークのアルミ工場の話をしてくださった方の話を聞かせて頂きました。その方は、高校時代は、挑戦することと、将来使いたい「好きなこと」を見つけることが大切だとおっしゃっていました。挑戦すること、については、高校時代はやってみたいことがあ

れば何でもやることができる時期だからたくさんの方に挑戦してほしい、そして、自分が何かの選択をしなくてはいけなくて、どちらを選ぶか迷ったときは、簡単な方ではなく、何も恐れずに難しい方を積極的に選んでほしい、失敗したら、失敗から何かを学んでほしい、とおっしゃっていました。わたしは、たくさんの方に挑戦はしてきましたが、迷ったときに難しい方を選択する、という考え方を今までしてきたことはありませんでした。どちらかというと簡単な方へと流れていってしまうほうだったので、簡単な方へ逃げずに、より困難な道を選び自分を成長させていきたいと思いました。好きなことを見つけること、については、「将来何になるか」は、「自分の好きなことは何か」ということで、それを見つけることは自分の未来にとってとても大事なことでおっしゃっていました。好きなことを仕事にできるのが一番すてきなことなので、そのためには、まず何が好きなことかを見つけたいといけません。高校時代には「自分は何が好きなのか」というアンテナを常につけることが大切だと教えて頂きました。わたしもまだはっきりとした将来の夢を持っていません。なので、この高校時代に自分の「好きなこと」を一生懸命に探していこうと思いました。

世界中で活躍されている三菱商社。そこで今回たくさんの方の充実した時間を過ごさせて頂けて、本当に嬉しかったです。今までとは違う目線で毎日を過ごすことができるようになりました。とても貴重な体験ができて、よかったです。

② 企業大学訪問

私たちの班は、等潤病院へ訪問させていただきました。初めに院長の伊藤雅史先生から、等潤病院は社会医療法人の公的な病院で、地域に寄り添った医療を行っているということや、等潤病院に設けられているCTやMRIなどの機械は世界でも一番性能のいいものだと教えて頂きました。

その後、伊藤先生から病院を案内していただきました。X線検査、CT検査、MRI検査、血管造影検査、それぞれが行われる部屋で、その検査について先生が詳しく説明してくださいました。MRIやCTは思ったよりもずっと大きくて、驚きました。続いて、透析をしている患者さん方のいる部屋と、手術室の中に入れていただきました。麻酔を行う機械などを実際に見ることができて感激しました。エコー検査をするところや、リハビリを行っているところ、連携している老人ホームなどにも入らせて頂くことができました。

病院を訪問させていただいたことで、一つの病院でこんなにたくさんの方を行っていること、また、多くの方で協力し合うことで病院は支えられていることを知ることができました。普段絶対に見ることのできないいろいろな設備を見ることができたり、今まで知らなかった医療のことについて新しく知ることができたりと、自分にとって非常に貴重な体験ばかりでした。

そして、伊藤先生の「どんな状況であっても患者のためにできることはないか探しています」という言葉が忘れられません。先生に医者として必要なことは何かを聞くと、「患者のために尽くす人材になること、目の前の患者を救いたいというところを持つことです」とおっしゃっていました。わたしは、まだ将来何になりたいのかは決まっていません。医師に興味がありますが、まだ迷っています。ですが、もし将来医師になったら、伊藤先生のように、いつも患者さんに寄り添っている優しい医師になりたいです。